

きて用ゆべし又此月の異名をめであひ月と秘藏抄いひ七夜月ナツキ秋初月アキノハツキと莫傳抄いひふみひろげ月
女郎花月七夕月集藏玉といへり

〔日本書紀四〕安寧神渟名川耳天皇中略三十三年中略其年七月フツキ

〔日本書紀通證九〕安寧七月フツキ方見方見稻穗見月也言此月之脫也

〔後撰和歌集五〕女のもとより文月ばかりにいひおこせて侍ける略○歌

〔秘藏抄上〕十二月異名 七月ふみづき略○中 めであひ月

〔莫傳抄〕十二月異名 七夜月 秋初月七月

〔藏玉和詠集〕十二月異名中略 七女鶉花 文披月 七夕月 女郎花月

〔伊呂波字類抄波〕天象八月ハツキ

〔八雲御抄三上〕八月 はつき

〔下學集上〕時節南オノ呂ノ落ノ葉ノ時ノ節ノ故ノ云ノ也

〔二中歷五〕時月倭名 八月俗說云八月木葉漸以搖落故稱此月爲葉落

〔奥義抄上〕未八月ハツキ 木のはもみちておつるゆるゑに葉おちづきといふをあやまれり

〔語意考〕八月を波月といふは保波利月の上下を略きいへり稻は皆八月に穂を張也

〔倭訓栞中〕編十九はつき 八月をいふ葉月の義黄葉の時に及ぶをいふめり西土にも葉月の名

あり

〔古今要覽稿時令〕はつき 八月 はつきは八月の和名なり葉月などもかけりさて此月の名の始

てみえしは戊午年秋八月甲午朔乙未天皇使書徹書兄書猾書及書弟書猾書と書日本書書え書る書され書たれど五月蠅の

文字既に神代の巻に出たれば其時代に月々の名目ありしもえるべからず朱鳥七年癸巳秋八

月幸藤原宮地萬葉集と卷一記せるは朱鳥の年號天武天皇の御宇なれば神武天皇の御代より遙に